



東大和ニツ池だより

第3号
(2024年3月)

発行 東大和市
市民環境部環境対策課
編集 認定NPO法人 生態工房
●この印刷物には再生紙を使用しています



かいぼり実施！ ここから始まる谷戸の水辺再生

東大和市ニツ池公園では、池を排水して魚を捕るかいぼりイベントを2023年11月に行いました。一般参加者、ボランティア「東大和狭山丘陵保全班」、市関係者など41名が池に入って奮闘する様子を大勢の見学者が見守りました。

魚捕りの後、約3ヶ月にわたる干し上げ期間にさまざまな作業を行い、生物多様性の回復を進めました。

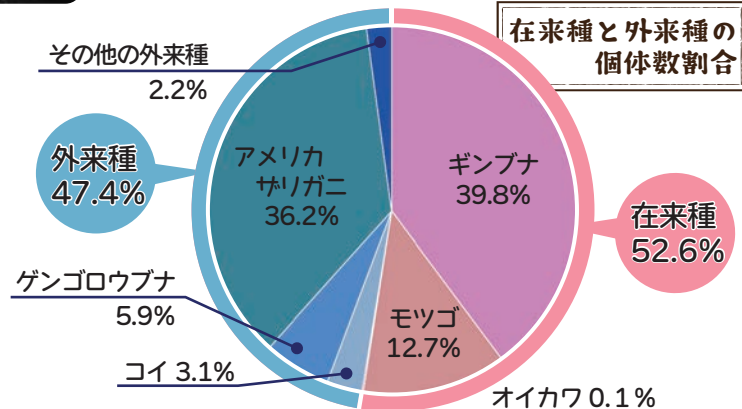
在来種

ギンブナ 330匹
モツゴ 105匹
オイカワ 1匹

外来種

特定外来生物
アメリカサリガニ 300匹
ゲンゴロウブナ 49匹
メダカ類 3匹
コイ 26匹
ブルーギル 8匹
オオクチバス 2匹
カワリヌマエビ属 2匹
タイリクバラタナゴ 2匹
特定外来生物
ミシシippアカミミガメ 1匹

※アメリカサリガニとミシシippアカミミガメは条件付特定外来生物



かいぼりで捕れた魚

かいぼりで捕獲した魚のうち、在来魚はギンブナ、モツゴ、オイカワの3種でした。外来魚や、水質悪化による影響が、個体数は少なめでした。捕獲した在来魚はいけすで保管し、かいぼり後に池へ戻しました。環境がよくなった池で数が増えていくことが期待されます。

外来魚は、釣りや観賞用に利用されるゲンゴロウブナ（ヘラブナ）、メダカ類、オオクチバスなど6種を確認しました。外来種のアメリカザリガニは、干し上げ時には泥の中へ逃げ込んでしまったため、あまり捕獲できませんでした。引き

続き対策を行っていく必要があります。

自然再生作業を実施

今回のかいぼりでは、外来魚駆除や水質改善のほか、市民参加イベントと専門業者による作業を組み合わせて水辺の自然再生を進めました。水質や生物多様性に影響をおよぼす園芸スレソールの駆除、岸辺への湿地環境の創出、池底のゴミ回収、水路の泥上げなどを行いました。また、かつてあったもう一つの池を復活させようと、かつて上の池があった場所に浅い池を掘りました。

かいぼりが終わり、元のように水をたたえているニツ池。今回の取組を機に、どんなふうに自然が回復していくのか、どうぞ観察してみてください。

池底の干し上げ

かいぼりで水質を改善するポイントが、池底を長く空気にさらしておくこと。水の富栄養化の原因となるチッ素が減少し、リンは水に溶け出しにくい状態に変化します。底泥が乾いてヒビ割れると、泥の内部に空気が届いてさらに効果が上がります。

かいぼり 写真館



2023年11月11日
イベント当日



捕れたて! 池の生きもの展示



和地市長の
掛け声で
魚捕りスタート!

わかりやす〜い!



一般参加者ら41名が
池に入って
魚を捕りました!



2023年11月
~2024年2月



すっかり干し上がりました!

ザリガニ
いないかな〜!



アオサギ



護岸沿いに湿地環境を
整備しました

整備した浅場の表層に
池底の泥を撒き出し。
水生植物が生えてくるかな?



園芸スイレンの
根茎除去



いけすで保管していた
在来種を再放流!



かつてあった「上の池」を復活!



水路にたまった泥を
取り除きました!

